

LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black



赤涼清門後樂琴

二之毫

目錄

- 第一 娘れ紅ひハ能ニ能小達人琴
母口取分子小甘じ甘竹美見
脚立立敷お行役通鑑
首領も多和多加山の琴



第二 爭也妹背とまくと渡もすと與人

まよひあわせば法の法を切せ腰
又下に引き姫御金子の世
名も儀赤深忠元胸に坊主行れ
もひ箇の袖もねぐらすとお實
借のたづと妻深うる尾あは松よ
にのま姫とて逃ゆるを松すまづ

第三

一 娘の軽いハ前二節小迷子歌

か枝と辞されあつ馬みどりみ友ひ者あり會歎
かきのやいとんや仁義の良智うる人ち恩と得て恩と報
せふ尖るにあつて木石を擣ふ廢し一葉廢に失
すりんや會歎とソドモに時の感とす一葉北之光と
歌つて人ふもちへ被物も恵一れと歌て人ふ被物を
うれとて地に生と見て一族と得る故に木石ハ難く
曲足すくも取一尔時めぐられても後もそび
立村てやう林ハ親と云ふねりうせふ幸あれやれ
さげ一すき高生少と劣つてはまふか一出この中
只まともとすくぶ麻子すり玉綾娘は又赤深忠の時用は

先に通鑑が御へらるる矢元の血源連邦恵小彦をもじり
名いあはも伝小釈より味方小属へ娘玉後も名をんと
御掌もさう御小もて御へも場とのどきあふ小立ゆり
あうまう登板へと御うゆくも因ふ惟茂の方うく
詔ひてさすめ娘れ歌き母君も因ド昌ひふおれをきけ
とはもくとも生小釈ふうりかよへと又あふお釈おれ
人く用ありげるお村みて立ほどひ所へゆと時用
おくもんてえ又御者とみねこのおひうづすもだく
操えい小女りんごとそ娘けうるす興味もうされず
ね乃ねと安てゑくれよおをうり大ほへ文へおれ傾み極
盡ふ罷とうち今と極て私ありお小世と雄もうれ清せ
じと義皆犯人れお法化と武士ぬれおれん渴ともすべ

たとへとく天を乃は將門追付れ宣旨伏賊ハ民邪
乃忠文小取一トさほとの使太文が毛小入れても猶小毛
つて居られしが角こはより新と投おれと至て余内
再い飯毛せど並に海陽小毛と山東人柄ちば
のこゝ史はどきふもあらじも世局次くれば柄ちば
輩小毛りて不足もあけきと大壁るお若どもりふぞ
小と娘が毛くわうおんふとつよすまくふあいとくももあ
ほふつひあく毛親毛ハリびくこつも潤ふくゆくわせ
親王に上使伊波の秉監上下のわ自もくすをまふ事無
時用支ぬ娘毛従た小出迎ひすびく是へと致ひ食く納
ふのりてふゞくおもむきおお親玉作付らるくゆ余の後
にうげ息女玉後毛とおおもく婚姻の儀式をす



じんと妻嫁をすゞへにかひてまわさうりもてちハ例の時
用ケ内股骨あらもあらもももくくれをどがくで
は事へどもれも要と其小手うむにやア付べどもよて所
ハ表玉きりあらずに我意然なれどやひをあがめく益け
仰ともあす首尾してこれよきもひそひ者内がふつむ
と立せみ十舞れい累報で立たまきはよき拙えびきにゆく
金せてれも歌と題くも痛心ももあら無心か義とねじゆ
かくもくにまつてその漢くわづひと婦門下の御宿
汝しも恨も今日つゝゆりアさんひま婦よりも遠慮
はきましむる婦用をあされいとひや此薦盤が仕あ
離系をいう能く五年う仕合すこすり儀くろ秋のまもと
赤深事門只事と充めはとまで上使れあらばも歴あれ納

れれ後持ゑをひが嫁みナ被まで親まれぬ拂く室かふ寄り
仕合おれ大度是小也び加経多ともんと立合せば債ち
く奥方体合あをみ出をもやぢすくせんて左様シカか
立於だくても娘はハ母親次第もとよほせんももとど
御令下シカ会あられシカての後物うりうりと娘ふと
ひはせ納得をそれと卒業遊學クウもとを寫して下り
まセとぞれふせひうまは面文附用マツヨウとぞて
にあひ少房嫁れよれ母親次第とお手すがさうがゆく
とんすくすくうりうりとれハぬまくれどもひ候合もども
だくすくふあせすだくすだくすであらすがゆく
もとうもとうにものすくねへ縁めんりやドもいても歎盤
歎小もよくい合はれゆくよくすを親見れ候セハ緒言も同

ああと一匁よりでもひ見こみればひきと肩のん禮をあ
そひひうてひまやたが何とおもがひかまうかる程くまへ
すとくねくま室。朝とねつ始とわざらちくでもおどんせわぢや
まア浦よろいのとれと今よすすりおづくはうおあす百萬よ
云無うとだくとくけめうづいたとこが彼娘のくわゆ
あて牛糞まきとまうさんでか店やまと叶つてかサア娘
やう娘今が絶命薙盤後小も壁はぬかひした小程
ふ縫としてひまく音ヤヒヒとひと。ひたむきひくゑもあ
縫での字事で压れを毋名傳うまどりもあせりこれ
玉縫縫て居てみはゆれつやかくやとスもあみてま
多ひのよきうじくとつまも波小別らうてぞり玉縫全
娘やくく私とおあげくへあくよとすもよとくひまく娘

てくても就と松井ゆハさつぐくやで、ごんきと、娘
きでよひが小魚登殿がすとゆく西うれ仕合しをひさを
まを小就と松井ゆくられひまくといもをもとを次
伊波妻聖のく抜玉一扇絹後へゆくと投そケ刀
原の小店とくい正一そて巧うりめらくりさんゆく西
翁翁御事かえと小袖技をて射ゆくへとて御衣取をゆ
一ほんとての情と時の恩とふと娘と承前へ突出一熱
娘よ本ともちぬくひゆかされてトされと山鼻がひもざと抱
て叶もん場と内院で板と落院の言教父は折檻母娘
くく。切ハ始づ大うきひひく板でかまね板でちやひと而
自來とつと竹田山ゆも乃もりん化る糞と糸と肩を
湯一もうう差浴に男も歛役でありて一湯ハ煮てお勤と

ハハま、と懐中よりうる縦尺を出へ。奥方が毛襷てみ
まを伏せひあがめ小毛、すて毛と云ひハ一首の事。毛と
毛色小毛、小毛り承玉ハねやもとこ人ひよまでしすハ能
うえありうすよぬもえあうすぬよとて伏てし姫、翁宿
ふを一ねよ、ごそんもすういぬしきを室きて御寝様よと
つて引よハあひ妻一ひすハきらひえわ、若向き、うち
うい妻をハあひぬも、無聲、松板ハ十六室、以あ大内、又丈
位、セーは、をれめ代、空き、御扇の廊下に御座ひ、
大も消され、絶やれ、うに打しも、作工ハ多く、はうく袖
ともうて、思すとえ小毛ようち我志とす、ひ詠へ
まうすかと食て、あまじと、和めて、歌く、音律、始終
も孔一ぐて、歌ふりみぢらじらしきり

二 恩也妹背く歌く涙も更ゆる

おもむき、はうりとつ世の後もかく、て娘と泣き、とえん
せうらのまよ、おれ、ゆけ、ゆけ、累ね申、も首と肩とす、魚籃
ふ摺あく、歌す、の娘たうりかりに、一役の勢りを、傳へ、而
れ地縁、まで時用す、歌う、おね、ねと、いふ、と、いふ、と、いふ、
うれも、歌ふと、ゆでけん、と、ゆく、娘、むく、后、依、奈、あ、ち
娘、君、小毛、じく、ひ、え、お、おり、ゆき、ゆゑ、り、の、れ、と、
ちも、面白、か、を、と、魚籃、松、ふ、流、と、ゆ、の、こ、の、の、
び、麻、病、け、情、も、伝、ゆ、ゆ、か、う、方、と、歌、と、又、毎、乳、母、お
ゆく、け、よ、じ、家、嫁の、歌、じ、月、お、も、う、り、て、安、く、と、お、高
モ、一、れ、信、ど、よ、一、宝、血、筋、は、又、御、と、ソ、ハ、魚、籃、松、ふ、

ハ奥さきにえすてよましく取とれてあをたあつこ
毛けがさし時とき用もち候まつて下さんせとほ身みと化ない懨か悔めせ
高たか時とき候まつば無む事ことす時とき用もち候まつはありて氣きれり後あとの
候まつりもあもんあるてもくく候まつと候まつされ候まつ後あとの
事こと室むろの入いてありわやだけともまううれき候まつも夏なつた
ぐく小こ左さ中なか國くに士しでまくく候まつも年とし月つきありひ
い俊そ害ごニ玉たま後あと是これ娘むすめとひ候まつ車くるま万まん馬馬を駆くら
もゆゆ公こう妾しやくて管くわんと焼やて管くわんと涼すず身み依より女めもと
う焉いて就す王おう帳じやう上うへ下さへ一い切きりもつよよ娘むすめをこもととて
済すくんとままハ酒さけ飲のてりまん粉こん粉こんりりまま方ほうれ義ぎ候まつても
押おつおよよくくりりややくくソソを就すれれよよくくしし、
つもく背せきととハ被はくくを休やすりりおおで就すきき

キキてて御ごくくひ物もの下さて下さんせややよよとすすと引ひききと
時とき用もちととて二ふたととて突つき放はなーーととも向むかーーくく懷いだり姫ひめ
を放はなええーー女めももどどるる事ことととお出でーーんすすとと事ことは
余よすすひひで瘦やせすすめめああとと小こ衣きつつててくくひひとと月つきととが
いいすすももれれととは被はくくわわーーととひひ瘦やせすすめめああとと衣き
小こ衣きかかうまでまでくくのの候まつててががくくも傳つくく風かぜ
ちちううのの深ふかいいすすももりりててああききににええすすーーととき
かかくくととモウヨイモウヨイととれれすすりりかかいいととをを管くわんににららひひににききと
うう自じかか一ひとううさんさんめめでも定じちち死しとと血ち筋すじにに接せつうう
のの死し後ごもも管くわんよよ給さへととひひ小こももよよ十六じゅう六ろく年ねん七月よ日日
一ひと度どのの同どう意い候まつしてしてとと背せきののひひてて人ひとととううよよののううり

小とすうはいふにまゆらく小あれどとて俄よ姫よあます
人情小とすきー仕方宍れ親でもとおぐもえ氣ゆ
まて全勝家筋の自分が侵すにせんをかがく力一氣亂よ
らさう娘とまこと幼がよりとごくもとてみでとひれて
僕や時ハ欲せりくもせぬ虎為者といふれてハ時用
嬢うよこゆく令く情ておし又情まぬでもこくわじ上
私志うる時娘玉瀧と血合が致してんじ身うる娘
じあらば血と合ひたつよあじ裏登殿へりゆくらとせ
石をハコリマ一候しむをよあう血合うり大見合がりた
えれねすひまようされひ物不ハ順けよし仕うとも接
出しそれぞ娘をハ白石の御入く拘らるど時用
へくととくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

血合れ淹たま立れもももうばかり立たまと振ふれくも玉接
ひあみわあげふるの持先切さきひづく圓も妨さざき法のと小
同そく流ながそり血あせはわは枝えの陽ひとひとふやく寔
付つても兵解ひやくても只散さん絃げんとが弘ひろきほ従つみハ圓と自じと合
てちちり初はじももうりきり血あせ立たまとみうまうもみく時用殿
ひ得とくひずれとくガガ太だ事ことは娘むすめにて居ゐて居ゐて思おもひて用
と今物もののちゆ小物ものも氣物ものもと渠くわいとあくに
ぞりをう娘むすめは夏なつからく今立たつと又またもいひひやん
時用殿だいは宣せん小こかすりことばよきても親王しんのうのゆう禮
うりをせんとく聞きて時用殿だいと定さだめ始はじいぶと經き
ゑゆうがくの血あせとひけと親おやぢ大切だい苦くるのとくら育いく一言
い親おやぢ大切だい仁じんと忍しのれ相あと用もちうとぬに西にし吉よしさんと



といはれましゆかわづかにからざるもヤシケルをあん
定め親の身ハモリヤシテモキムタクモモリモアシヌ
ソトトナシテおどりもひきまわしハ御ひとあるじよ
けくまきと斗ふてハ麻々えもやうとシハジ時用
アシモ引してまさんきのねまうる義理が對をとる夫
胸の邊もうりあし事とす味佳黨れ約とシスビリモチ
場と道ん物付斗解説を親玉がふりあひて支軍少ヒ
加くもさうは後も親玉が飯とげぞーまた義理の義
とんぐくくちーこと親玉へあつてハラカサキ。惟茂
公の意欲小松て安納と遠くさんとせきんもに情る
角也あづは此時用ぐ今の方ハ若ニ思ひ二つりの

中間まで一歩行ひハ娘とらぐくツヨマギ刀とくらにす
とれどよきハ色よみよきうの西子の頬字モボコソ文
字の頬。文字下にあくとよまなれ傷にてよけ出絶
卫衣長裏二つ大刀筋血筋と正のねぎるほりと一腰
ぬひて投あヒ。刀逃れ抜より下へ薙茎が脇腹うりと刺
をし。ア森枝見とそよまれんとひぬとくねま
もとて源。ほりもとくねま親の令も切て捨て公義無
血筋の親よもとくねま娘でしよ切しまでふと赤濱清
門。松香娘氣をひきうちをもとも草うじ紫鈴丸
てとときてや。お森枝有難あらまくろの一事と嘆ます
き月をと一日とひとひてもわづれは性存候て安房所
ひ立つとハあくろぬかうへと回く御宴とくゆる波

駄の魚屋娘うおやむすめはうらと争うさぎとしけねくおおむの朝あさて入いり
 人々をまもてあきかえは後さか後さか連れん氣きふも某もしと藏くわれ歎かなと
 ちりほくも奈な父ちち小立こだてれ仕方つか難むずても金かなううるを難むず
 祖その骨ほと小接くわせ小伎わざ後さかとくどり血あかとくスよス親おやぢ
 にかと角くつて力ぢから株くじらとやシテ一いつ目めで假うそ小油こゆ
 勝かつも四よ十年じ來き假うそりんあら裏うらむれじうひ海かいをすき
 代しろ承うけれ玉たま後さか御ご連れん後さか魚うお連れんとくス人ひとハハ實じつ
 初はじ初はじと登のりまとうとくスが方かたとばとの兼かね
 聖ひじり平氏ひらの代しろ代しろ後さか魚うお連れんのばうり和わキは安やす
 て行ゆ角くつ核かくもちうス小こ併あわ經きくスかすにへうス悪事あくじ
 れどく見てみさス邊へ海かいも死死没ぼつ名なと出だみ
 ことや死死とも深ふかいス悔くやめめひス悔くやめめひス悔くやめめひス悔くやめめひス

一いっきぬふうの時用とき照てて床くつうりス行くとひえ
 指さ源げんひて裂さ神切じんせき妻めと離はなれて行ゆきに井い機きもとスも
 せあきみあきみおわおわと老おもスいスもスかカくスと老おもスいスもスかカくスもスもス
 うスりス士しとゆゆん絆むすびふ入いたりスんにスそ^シとびスりス結むすす
 蔡さい本ほんのももうスきスうスくス赤あか染ぬぐあつとスくスゆゆわわと娘むすめ
 に身みに講はなしまま自じ然ぜん青あお小こ機き集めつれれんはめめんはめめんはめめんはめめ
 きスくスれれ手てとス考かぶぶそそてももももととががままれれんはめめんはめめんはめめんはめめんはめめ
 てて出でゆゆよよ

三 离賣さよなは先まへて林はやの掌てのせほる

士農工道じのうこうどうもあれ室むろ凡わんと死死ぬぬいよああはる

うとい川にちよの付屬にて、例とすとさんばくは一家いりそ千人を
万石のめぐらありて、折くふ巡御観覽ありわたりに、
微力なりて、食もせほどもして、みのたのをさむるもあ
けきふれなまでもせじとる夜よふ月も、見ゆるもあ
疏淡而あ春が、宿屋をうぬ申にもまくととがくさんや
妻ハとて仕立お女は業そつとすく仕事(小生ひ端貴
て、塗と生)、綺羅をうと賣(アマ)て、偏屈指南(アマ)と出一
ぐ一日独りして、久々、船のあやべりて、居をひりとれ
ううとやうとくやふも付て、とうく浮世へんぐのゆき頭
小皿(アマ)うけは中れ、麻衣(アマ)ま仕(アマ)よ、難(アマ)とて、六代(アマ)と
定めあるもと、絶えぞれかくえもくに、船をぬけ、立候

きだ因陀(アマ)からくのうひで、やこれ跡も、便(アマ)とお
れ自然と、象(アマ)内(アマ)の角(アマ)く、あもて、今け朝(アマ)のそぞり
も、いのうせふえびける状(アマ)姿(アマ)、いま婦(アマ)うけよ、そし承(アマ)う
とあ(アマ)、登(アマ)ハ人々と、乗(アマ)三脚(アマ)、行(アマ)店(アマ)よ、女(アマ)お、居(アマ)
みをも、そし、店(アマ)よ、より二里余(アマ)の板(アマ)と、伏(アマ)
ひきばあ(アマ)と、籠(アマ)本(アマ)の轡(アマ)高(アマ)よ、ひもすく、朱雀(アマ)
まで、はかる、が、三(アマ)すいで、押(アマ)す、尻(アマ)のほす、うれ色(アマ)、ひひ
あ(アマ)も、初(アマ)の花(アマ)、美(アマ)く、も、仕(アマ)されと、ゆく、山(アマ)笠(アマ)、御(アマ)え
え子(アマ)ハ、五(アマ)令(アマ)す、と、お葉(アマ)と、お(アマ)、お(アマ)雜(アマ)水(アマ)とす、そ
れ(アマ)す、まよ(アマ)と、御(アマ)衣(アマ)、福(アマ)と、酒(アマ)も、お(アマ)うりて、ちと、行(アマ)ひのえ
ひ姑(アマ)まよ(アマ)、自(アマ)身(アマ)が、すくは、まよ(アマ)は、まよ(アマ)は、女(アマ)あ(アマ)うり、窮(アマ)
小(アマ)き(アマ)セ、よ(アマ)小(アマ)代(アマ)、高(アマ)世(アマ)お(アマ)ね(アマ)す、え、小(アマ)袖(アマ)足(アマ)紫(アマ)鼻(アマ)緑(アマ)

情であざひあざひあるたまへ育つてありせり。其のうちに皆
けふらうに偏屈にて織して家業にあまう者と、ハ支
も壁る藝をもる麻と、儀い人かねがくもく。唯我独
もとつれよかで、ちあめよ罵と額みハ人きづく。而節
と殿とわくも亭ともゆあ、金ひゆにて立生行きも。リヤ
稽が生まくるも。さかまうより弓をめいと弓をままで
所をひらめく。とじんと横てやうとううをきく。人
とあはらきて、以ハ行のうて筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋
犯、もうくよ被れ。説が生小秋。老偏絶。矢場のせりよ
れ。掌老をひて。意皆直の親父。おねまぐにも。大
尾喰て迎。ねね交論。眞節。もので。秋食。不盡。も。

よもはいあら。豈る心に。終れ。故と。こちて。ふ寄も
あびぬ。水と。生を。いそれて。雀。よ。ば。て。や。ど。ろ
や。生偏屈。て。縁。し。對。て。心。い。も。あ。う。中。に。も。蟹。吸。横
平。を。出。で。や。そ。ハ。生。偏。家。中。で。も。ち。だ。家。下。家。ハ。乾。張
な。ふ。も。と。だ。氣。表。う。家。又。津。ち。家。す。に。余。り。う
廣。大。う。家。の。害。を。し。あ。家。す。も。聲。せ。バ。大。豆。で。に。才。義。仕
す。れ。す。え。つ。つ。ま。れ。津。ひ。小。も。い。豆。福。う。じ。太。京。福
ひ。ひ。の。せ。と。ど。て。ち。く。ふ。そ。り。ま。小。村。ト。拙。知。吉。津
ち。う。る。人。の。年。頃。う。急。公。主。る。と。大。無。也。と。ね。私。也
て。私。と。朋。友。中。に。は。た。あ。り。そ。彼。を。贈。と。ぞ。す。る。義
を。放。り。や。小。仙。冠。れ。香。箱。と。善。ん。こ。よ。ね。と。御。以。掌

はー一軸とえぬー身よどせて草をば大不快びりひて
ゆうまうらうに床にゑてゆくから胸氣ぞりきるも
えむー行け情すもあく件はをねてじよくに引寄
わくのをせやー先は男あり合とほゆく角へまきま
お説ふるれどさればーあお家本お通れ多也とほ
居る處をハ致せやーか床小室を放て見ヤてばあはる間
こあつて念の二室が氣そりいふしても退散小室や
さばくしてへらん仕合ひハ大半の香合一つ柳によつて
ひと詠ハ難ひ小うりにうりゆか氣象ハシトモヤベキ
と詠せバ称たまはてよくと感させま言事の如門これ
とよてとのひまよ付て拙傍もげ往一向家代報多き探
金よりも原き地共を出わへ一曰あはれ危事一回の後

一宿をして都へじ約束にて长途といふとあひて
すゞれ遠無事とゆきて殊中にて病かげばま轉ひ爲
かきハ始ね小定めて肩と体めま秋れ二枚ぞアリト様
神して元幸に仕を被探合やが生行とさんこまづ難
といつを夜もこじて喰てすりとば彼奴ももれ老湯至る
立美徳と衣とゆき賣てハニ夜れられもあうおとく
すれ多りとこ養わらくとよとゆくて行もあひと云々^{アリ}
小拾行かる小羊せをもりと来て潔身軽小立て出
ととて終ひて探合にすとせば女房と小羊いふ
ひめのよ景教されとせば少少小羊けて仕すひぢりひ
やとあひてゆくと二人あたてあくねこねりント

小婢小夜子紙を寝て二人の腰よ薙紙を寝あらば
 とを仰ぎ月トやうちもくとすしらが夕食を授匂ひて紙柏
 ぬあれ見識ひよにあひてよ廣りてまかうかくゆき
 嘿こよ言寺寺子孫ハ毛うよけうすげに様ます
 桜宿にもお説教ありと新たまゆ松大門云乃
 うとお供ひ小ち跡ひくと六櫻舍もしはくても玉門
 うとお供ひ小ち跡ひくと六櫻舍もしはくても玉門
 うとお供ひ小ち跡ひくと六櫻舍もしはくても玉門
 美うてゆきあとおと五郎を起ゆるてわゆふりと
 めうてゆきあとおと五郎を起ゆるてわゆふりと
 に先とれを廻くあれかくわづか所ハ松濱家に告多
 店のうちえいが一西うえに廻くとおもやう襷門樓を人合連
 件のうち店よ立入りとね地つくりとてわゆふりと

仰ひやとは蓋もあひぐくみれ茶入と掛けりゆく家見小
 さ根とねひまくに肉目に見えと廻うと家來代價め
 や据へて因うし遠入ニとおねぐく廻届人ふては乃室
 とまうす娘とあらひひ野て経ぐべとよし小亭とく
 待店坐よれて坐イヤ五九文でゆと坐主せば孫つゝれとせ
 てハヤアシとの加減でやうすひ役者と云程よ坐ひ
 係じ是れ偏正う復唐れかううケ板北候りもあらすみほ
 すれどと娘くあゑとすてな小進さんとせゆ一タ

